

「私らしさ」

広島県 萬福寺 高橋道英

さーちゃんは、スカートよりズボンが好き、外で遊ぶのが大好きな女の子です。小学校の高学年になった頃、周りの女の子たちは恋の話をするようになりました。

「ねえ、さーちゃんは、どんな男の子が好き？」と聞かれた時、上手く答えることができませんでした。そして心の中では、こう思っていました。「どっちかっていうと、私はあの女の子の方が気になるなあ・・・」。

大きくなるにつれて、その気持ちは確かなものになっていきました。男の子とお付き合いしてみましたが全くときめきません。その頃のさーちゃんは、みんなの前では明るい女の子、でも心の中は不安でいっぱいでした。「女の子を好きになるって変なのかな？みんなと違うっていけないことなのかな？」

学校を卒業したさーちゃんは、小学校の先生になりました。同僚の先生は仲良くなろうと「彼氏いるんですか？好みのタイプは？」と声をかけてくれますが、やはり上手く答えられません。「やっぱり私が、先生になるのはいけないことなのかな・・・」と悩んでしまいます。更に、子どもたちとふれあいたくて先生になったのに、多忙な毎日でそれもかないません。そして全てを悪い方に考えるようになり、ついにある朝、ベッドから起き上がることができなくなってしまいました。心の病と診断され休職することになり、不安と絶望の毎日でした。そんな中「私のやりたいことって何だろう？」と、食べたい物・行きたい所・逢いたい人・・・思いつくままにノートに書き出してみました。

その中の一つが、両親に自分の性のことを打ち明けることでした。今まで言えなかった思いを、勇気を出して全て告白しました。それを聞いたお母さんは「今までごめんね。でも私たちはさーちゃんがさーちゃんらしく生きて、幸せになってくれたら、それで充分だよ」と言って強く抱きしめてくれました。この一言を聞いて、人と違うことはいけないことという思いがなくなり、違うことも私の大事な一部、全部ひっくるめて私らしさだと気がつきました。ありのままの自分を受けとめてもらい、私は生きていていいんだ！生きていけると思いました。

『誰ひとり取り残さない世界』を実現するためには、多くの人が性的少数者、さーちゃんのように性に悩む人のことを理解していただきたいと願います。